

669 漫録（横田千之助・政治と真剣味）

〔『法学新報』第31卷10（358）号 大正10年10月5日〕

漫録

○政治と真剣味

茲に掲ぐる一篇は學員横田千之助氏が去る六月十九日中央大学政治学会に於て講演せられたる速記にして同氏の訂正を請ふて掲載することとせり若し夫れ其標題に至りては記者の恣に附したるものとす請ふ諒焉（記者識）

法制局長官 横田千之助

諸君、今日は私の母校である中央大学で政治に関する諸般の攻究をなさるる学会が出来たと云ふことに就きまして、馬場鏝一博士より、私に出て来て、祝辞を述へると云ふ御話であつた。祝辞は、実に結構なことたと云つて御祝ひ申上るより外は別に申上様も無い。既に新たに中央大学に招聘されたる最も新しき頭脳を持つて居られるところの蠟山学士の如き教授か日日出席せられ、将来内に外に向つて帝国が発達向上して行く筋道に就ての講釈を聞かれて居る諸君は、更に別に研究会を起されて諸般の活きた問題に就て、常に攻究を怠らない。斯う云ふことに就て言はれなくも祝辞は申上げる積りて居つたのであります。それ以外の事を、何か言へと云ふ御注文がありましたも何分にも此の演壇は、私のやうな脊の低い人間には少し高過ぎて胸に岡へるのみならず、近頃は弁護士か裁判所へ出て行くやうに、縷々枢密院と云ふ恐い叔父さんの集りの所へ呼出されて、洵にその細いことや大きい様な質問などを受けて居るのです。大きな様などころから行くと云ふと、関東州には憲法は行はれて居らぬ。此の憲法の行はれて居らぬ所て勅令若くは、府令、内訓達等この国法上の差別はどうなつて居るなと云ふ御質問もある。さうかと思ふと、其間に於て、「コカイン」や「モルヒネ」を小包郵便で送つて行くさうであるか、是はどう云ふ規則で以て送つて行くのであるか。斯う云ふやうな点迄、御質問か発せられることかあるのであります。大きい物にブツ突かないやうに勉強するかと思ふと、細い石に躓かないやうに気を付けなければならぬ。斯う毎日毎日月給のために苦しんで居りますと

云ふと段段頭か小さくなり、とても此の新しい知識を持ち、新しい生命を有して活躍をせられるところの諸君の前て私は講演をする杯と云ふことは仲仲思も及はぬ。此の講演と云ふことから行けば、寧ろ諸君から私か承らなければならぬ位置である。然るにも拘はらず馬場博士からの御命令で、此処て言はなければならぬと云ふ主客顛倒の立場に立つて、而して今日は五時には、私か他の会に参集しなければならぬと云ふ時間の制限迄も受けて居る次第であります。此の苦境に立つたる私の心持と云ふものは、同窓の諸君に深く諒として貰はなければなぬ

私は今より二ヶ年数ヶ月前に於て、此の中央大学の卒業式に臨んで、一席の演説をした覚があります確か大正七年の十月十二日であると記憶す。当時聯合國と同盟国の戦は既に終末に近かんとし流石に世界を震撼せしめたるところの独逸の兇暴の焰も段段鎮まつて来た時である。此の場合に於て例の亜米利加のウイルソン氏か正義人道博愛の旗を高く掲げた。世界多数の人類の幸福を我か独りて作り出す。斯う云ふ懸声の時代かあつたのであります。此の場合に於て私の前に現れたところの諸先輩は頻りに亜米利加を激賞せられた。ウイルソン氏の大人格を鼓吹せられたのであつた。当時私は若干の疑を持つた。其点に就て若干の疑を持つたから諸君に赤裸裸に其事を話した覚がある。ウイルソン氏の叫は果して真劍の叫であるか？衷心、一点已を欺かざる叫であるか？此点に就て疑を挟んだ。縦しウイルソン氏は已を欺かないとしてもウイルソン氏に依つて代表せられる亜米利加一億何千万の人の叫は果して斯

やうであらうか？此点に就て疑を挟んだ当時私は媾和の終局は恐らくは、今後半年、永くも一ヶ年若くは一ヶ年半の後に結末を告ぐるであらうと云ふことを諸君に告げたのである。然れども此の媾和か終結を告げた後に於ても、世界は決して安泰て無いと云ふことを、大予言者たと云ふことは言はぬか予言者の心持て諸君に告げた記憶がある。殊に東洋方面に於て、東洋民族の運命此の運命を開拓しやうとする東洋民族の努力格闘すへき時機は是から始まるのである。歐洲大戦の以後から始まつて、其幕を切つて落すのであると云ふことを諸君に告げた覚がある

私は……話か変わりますか……故釋宗演師か大乘經の心髓として居る所の觀音經普門品の講釈中。大部話か古くなつた。親音經普門品の講義中に釋宗演か斯う云ふ話をした。親鸞上人の主唱に係る他方本願の南無阿彌陀仏の此の称号……六字の称号此の称号を一意専心、此の専心と云ふ処か大部効目がある。如何に南無阿彌陀仏を唱えても、一心に、専念に、と云ふ、此処に頭を使はないと云ふと、是か空念仏になる。此の称号を唱えれば極樂浄土に往く事か出来ると云ふ此の教か津津浦浦に広まつた。其の當時に於て一人の信仰をするお婆さんか毎日毎日南無阿彌陀仏、を唱えた。風か吹いても、雨か降つても、沖か荒れても南無阿彌陀仏、飯の菜が不味いと云つては南無阿彌陀仏嫁か言ふことを聞かぬと云つては南無阿彌陀仏て暮して居つて、生命七十年を保つて遂に往生をしたのである。七十年の間に唱ゑたる南無阿彌陀仏は其數幾等であつたか知れませぬか此沢山の六字の称号を大八車に積込んで何台かの大八車で彼の世

に持つて行つたのである。然るに、測らざりき到着地の門には、鉄の戸堅く閉して、虎の皮の褌を着た鬼か番をして入れて呉れない。お前か持つて来たのは何であるかと尤める、そこでお婆さんは得意然とこの私か持つて来たお土産と云ふのは、あなたも好きな処の南無阿弥陀仏の弥陀の称号である。是たけ立派なお土産を持つて来たのであるからどうか私を極楽浄土へやつて戴きたいと云つて要求したに拘はらず、鬼は輒く首肯せず段段と調べて見た所か、その南無阿弥陀仏の称号と云ふものは頗る軽くして、鬼か一息懸ける度にポンポン飛んでしまふ。殆んど空になつて仕舞たか何千万の南無阿弥陀仏の中に、只一つの重みのある物があるからはは何んたと調べて見ると云ふと、其のお婆さんか蚕を飼ふのに桑を採るために野原へ行つて、其の野原へ行つた時に非常な雷雨があつた、一天掻曇つて、雷鳴響き渡つて、殆ど命も危いと思つた時に、真に南無阿弥陀仏を一遍唱えたことかあつた。此の南無阿弥陀仏だけか真の南無阿弥陀仏であつてそれ以外の南無阿弥陀仏と云ふものは、吹けば飛ぶやうな空念仏であつたと云ふことを聞いた。お伽噺のやうな話でありますか、此中に真に何所かに捉へ所かあるかと私は思ふ。釋宗演師は多数の女子供や或は紳士や書生等を集めて居る中で最も真摯なる態度、敬虔なる様子で、此話をされた。ウイルソンか唱えたる正義、人道博愛の叫、亜米利加の国民を代表した叫か真に此婆さんか雷雨に打たれんとした刹那に読んだ所の南無阿弥陀仏であつたか。唯勢に乘し、世界の事我手に依て成れりと、上調子の空念仏であつたかは、今日以後の世界の

大變動に鞭つ所の各政治家の手腕に依り試験せらるべき時機か時時刻刻迫りつつあるのであります。今幾多の新しき思想幾多の改造運動、是等のことか起つて居る。真劍の叫は何所にあるか之を先づ諸君は考へなければならぬ。空念仏であるか、真の叫であるか、之を考へなければならぬ。私の觀る所に依れば、今日の政治上各般の事柄と云ふものは、未だ真劍味か足りないのである。真劍勝負に入つて居らぬのである。真に力か籠つた所の格闘と云ふものか無い。私は衆議院議員に送られて以後今年今月で丸九年になります。丸九年になりますか、真に骨の折れた此れては、どうも耐え切れるかとうかと云ふ仕事にブツ突かつた験か無い。政界に居ること九年、さう云ふ運命、さう云ふ場合にブツ突かつたことか無いと云ふのは未だ真劍味か足りないのてあらうと思ふ私自身か足りないのみならず他の連中にも足りぬのてあらうと斯う私は考へた此意味から考へて見ますると、此幾多の要求の中に、真劍味か何所にあるかと云へは思想の動揺と云ふものかあつて、内に於ては何所か之を帰趨する所を見付さなければならぬと云ふのであるか此所に真劍味を研究する時には、人間の性と云ふものか慣習の威力仏法て云へは、薰習力と云ひます、此薰習力か宇宙、天地及び此内に棲息する所の人類及び其他の万象に対して、とれたけの威力を有つて居るかと云ふことの測量を一つしなければならぬ。此測量に先づ頭を突込まなければならぬ。此測量をして置いて偕て此慣習の威力に向つて、衝動を試むる所の新しい理論の働新しい理論より起る所の大なる真劍の運動との衝突と云ふことに就ても

考を及ぼさなければならぬ。此旧慣、古格の威力に向つて、新しい理論に出発する所の真剣の運動かブツ突かる所に、真の思想上の動揺か起る。是は一向私は驚かない。斯う云ふことか私にはあつて然るべきことであらうと思ふ。是無くは百事停滞凝結して殆ど天地宇宙の向上発達は停止する事となつて来る。内に於ては斯う云ふ問題か起つて来るか外に向つては、日本民族か、世界の上の新しい、要求か起らなければならぬ。新運動か起らなければならぬ。此外に向つての日本の国家団体としての大運動と内に於ての社会の平等なる利福を求め個人の自覚に基く所の新たな要求に出発する思想と旧慣古格の尊重すべき点を保守せんとする考より出発する所の両対立する所の思想の発展に基き国運、国命を開く時代か今日に於て到着して居ると私は思ふ。今日迄の所ではまたまた空念仏が多い。併し此空念仏か段段と信仰の本領本域に達して来て、信仰に依つて己の靈眼を開き、信念に依つて自分の勇猛心を起しさうして互に相對峙する所に真の政治上の格闘と云つても宜しいか、此大戦か行はれるものと思ふ。時時刻刻に迫つて来て居るかと思は思ふ。諸君は、中央大学に於て法律經濟の研究をせられて居る。且つ政治學研究会を起されて、政治上の活問題を討究の題目に供せられるのでありませうか。此法律を研究せられる間に於ても、三ヶ年でも四ヶ年でも法律研究をせられる間に於ても法の真髓、何れにありやと云ふ、空念仏でない法の根本を掘出す物を捉へやうとなさることか、必要であらうと思ふ。之を捉へ出すとするとするには、諸君の靈眼を開いて、一歩進んで天地宇宙の大

法則の彼方に向つて、頭を一つ働かさなければならぬ。う。亜米利加のランシングと云ふやうな人の書いたウイルソンの大統領と、其当時の大統領と仲が悪くなつた事情、記録を読んで見ると如何にも中央大学で吾吾の教はつたやうな法律の理屈を振り廻して、書いてあります。而も山東の問題に就てなぞは、恰度日本が何とかして、支那へあれを返すと云ふのは、色な甘い物を自分の方に取つてしまつてから返すと云ふのは、恰も巡査か財布を拾ひ主より屈を受けて、中味を取つて、其空財布を落し主に返すやうなものだと云ふ警諭迄援いて法律学校の一年生でも知つて居るやうな小理屈をくつ付けて居る。天地宇宙の大なる歷程今東洋に於ける日本かどう云ふ位置に居るか。永い間吾吾黄色人種の運命と云ふものかどう取扱はれて居つたか。亜米利加か亜米利加モンロー主義を唱えて、あの方面に羽翼を伸はした。其時の事柄はどうであるか。それら大きい所から少しも立論して居らぬ。ヤップ島の問題でもさうだ。日本と亜米利加との外交文書の往復文を御覧になれば解りますか、悉く例の小理屈論であつて、区裁判所て弁護士か討論をして居る位の事しか言つて居らぬ。世界の正義、人道、博愛を高唱したる亜米利加の外交文書、当時の國務卿ランシングとも云はれる人か斯う云ふ小理屈小細工から絞り出した所の三百理屈に依つて応答される。此現状は、是は打破されなければならぬ又打破すべきものである。けれども打破すべき責任は言ふ迄もなく、吾吾の肩にあると云ふことは、勿論の話である。人間の壽命を五十年と申しますか此壽命は康熙字典、に就て見れば命

とは天の付与する責任なりと書いてある。命と云ふのは天より与へられたる所の人間の本分責任である。吾吾か生まれ落ちた時に、人としての本分責任か、オギヤアと生まれた声と共に脊中に負つて居る。幸か不幸か諸君も吾吾も共に中央大学に学んだ。共に法律を学んだ。法律を学ぶ其隣は政治である。私は政治上の陣笠となつて、今は役人の端くれに居る。諸君は中央大学の学生として、政治学研究会を起して共に、政治界の方面に腕を振はふと志を一つにして居る。大正七年の十月十二日に於て私か諸君に告げたウィルソンの正義人道博愛は、空念仏とは云はぬか、亜米利加国民としての空念仏である。世界平和は世界大戦と共に完全には克復をしない。加之東洋方面に於ては益々紛糾して来る。之を踏破るのは日本国民の責任である。而して日本国民の中堅は此中央大学の此中央から出て来なければならぬと、斯う私は云つた。今日も私は其心持は変らぬ。二年何个月て変るへき筈も無い。斯う云ふ次第でありますから私は諸君か此会を起されて、而して政治方面に向つて注意をせられると云ふことに就ては、是はとうも国家か盛になる前兆であらうと思ふ。大變大きなことを云ふやうでありますか、とうもさうなつて然るへきものであらうと思ふ。中央大学の学風を見ますと何となく質実穩健であります。質実穩健な所がある。而して出て行つた先輩を見ましても、実業界に於きましても、皆獨立独歩て其運命を開拓して居る人か多い。私の知つて居る方面にも二三人居りますか、決して人の雇人になつて居りませぬ。大い(ママ)会社や大きい商店の手代やなんそになつて、鰻昇りの民間

的月給取と云ふのでは無い。皆自分か、努力を以て自分か事業を築き上げて、自分か主人になつて居る人か多い。私の知つて居る限りには、学者の方面に於ても其通りである。別に学閥關係て後援も受けて居らぬ。而して地歩を為して居る。斯う云ふ人か先を為して居るのである。あつちこつちの学生のストライキ騒ぎなどがある、同盟休校、種種な空ッ騒ぎかありますか、私は中央大学に於ては、さう云ふことを見て居らぬのである。今日迄實際さう云ふことに、ブツ突かつた事はないのである。尤も私の学生時代には、勤勉努力恭謙な生徒であつたのであるから私は此意味から云つて、中央大学の学生諸君か、新聞に能くある仲仲凄しい学長を追出したと云ふやうな景氣良い文句では形容をされないけれども言ふへからさる所の勇氣か内に満ちて居るものと思ふ。觀世音菩薩は容貌は頗る温順しく表徴されて居りますか、智仁勇大慈悲大智恵大勇猛心を表徴されたものであります、然れとも外貌は女性的に出来て居る。中央大学は、とうも中央大学の学生は一向音も沙汰も無い、日本大学と雖も、早稲田と雖も、明治大学と雖も、種種の景氣の好い事をやるのに、中央大学は寂として新聞にも余り出ないちや無いか。斯う云ふことを能く吾吾の友達から聞く。それで好いちや無いか何も差支無いちや無いかはか学校を卒業する迄、修養蓄積される所の大慈悲、大智恵、大勇猛心の悉く親世音の形を現はして居る、斯う私は答弁して居る。期う云ふ点から見に行つて、私はまア五年十年の後、此中央大学殊に政治学研究部員の御方の中から多数の新進政治家か出てられて、真に日本か内に

向つても真劍の勝負をしなければならぬ、社会の有らゆる組織を改造する真劍の勝負をしなければならぬ、外に向つても、国家団体として真劍の戦をしなければならぬ、期う云ふ時に向つて、今日の御互の修養と云ふものが必要になると云ふことを予言して憚らない

今一言を御話致しますか平素の修養と云ふものは恐ろしいものだと云ふことを御参考にして置くか、私の友人に手裏劍の名人がある。非常な手裏劍の名人である。此手裏劍の名人は謙遜家だから自分では云はぬか其友達か彼方此方で、酒飲話に此人の手裏劍の偉いことを講釈をして歩く。實際偉い。友人連酒飲話に、薄暗くても向ふの方の雀などを射止める。斯う云ふやうなことを始終話されて居る。所か撃劍の非常な名人かそれを聞いた。撃劍の偉い名人に聞かれた。撃劍使ひなどは、大概な奴は唯一発でしめて終ふと云ふやうなことを聞かれた。鳥見たいな小さい身体の非常な敏捷なものでもやるのですから人間なとは訳はあるまいと云つた。朝飯前だ……それを撃劍の名人に聞かれた。鳥は撃劍を知らぬから防禦の術を知らぬ、日本武道の品位を傷けると云ふとも思つたか屢々仕合を求められた。手裏劍の名人は品格あり資産豊かなる立派な実業家である。そんなこと何も威張らうと云ふのでは無い。所か屢々申込を受ける。再三再四断つて居る。最近の出来事である。所かどうしても聞かない、そこで折角数回の何たからそれでは一つやつて見やうと云ふことで、始めやうと云ふので、手裏劍は三本、撃劍は今言ふ通り空念仏になつてはいかぬと云ふので、是ては真

劍味か生して来ない、刃を引いた刀である。矢張り之で打ては非帝(マヤ)に痛い。切つてしまいはしまいけれども手酷くやらなければ、それてなければ真の勝負にならぬと云ふので、手裏劍の先には綿(マヤ)でタンボを付けてあるし(マヤ)かつり離れないやうに。三本しか手に持たない。それで数間距つて此三本で射止めたならば、三本目に射止めたならば此方が勝と云ふことでやつた。然るに其当時は矢張り撃劍でやるやうな面を冠つて、籠手を付けてやる。それから撃劍の方の刀を持つ居る方はタンボがありますから道具は付けて居らぬ。胸の辺にたけ胴を付けて居る。所て両方共其方の大天狗でありますからして、互に睨合つてやつた時に向か身構をする。手裏劍一本を先つ放した。名人は自分の手裏劍を射止める奴は無いと思つて居る。所か撃劍家も流石に名人最初の一発を美事に刀で受止めた。受止めるや否や飛込んで来た。俺の手裏劍一つを受止める奴は、一本一本出しては駄目だ。是か瞬間も経たない内に頭の中に極まつた。直くに二本を同時に打つた。果せる哉二本打つと言ふと片方は刀で受けたか、片方は受止める間か無い。それは恐ろしいもので、是は実話でありますか、タンボが離れて頬を。射抜いた。そして大怪我をした。併し撃劍家の方は之を射抜かれた後に飛込んで来て刀を持って手裏劍の名人の右の腕を手酷く打つた。恰度、籠手を付けてゐたから好いのでありますか道具を切つて非常な此所に怪我をした。何針か縫つた。是は實際の話だ。是か段段私は名人に向つて聞いて見ました所か、二本を直ぐに出すと云ふことか仲仲出来るものでない。平素修養が無いと真劍味に、ハツと云ふ

時に、申談事では出来ない。矢張一本取つて置いて、此次は次はと思つて居る内に、自分かやられて終ふ。思切つて。一本手裏剣を打つて之を受止められて、次から次へ出せはやられて終ふから二本同時に打つ所に言ふ可からざる味がある。斯う云ふことを聞いたことがある

私は帝国は此手裏剣を二本同時に打ち出すやうな時か来ると云ふことを予言して憚らない。内に向つて外に向つて、同時に手裏剣を二本打つ時か来ると云ふことを断言して憚らない。来年辺りから案外国際事情も面倒にならう。今の内閣の諸公はとう云ふ考を持つて居られるか、知らぬか私よりも樂觀のやうであるか、私よりも稍々樂觀のやうである。私は日本現在の国運を大悲観をして、而して其次に大樂觀をして居る政治家であります。此意味から云ふと必竟日本の民族は外に向つて大衝動を起し返す刀て内に向つても働き、新しい要求に向つて新しい組立をなすへき運命を負つて居る。其場合に於て一本は先づ射損しても二本の手裏剣を同時に打つへき運命にあると云ふことを諸君に告げて、時間制限があるために、何時も話は纏つては居りませぬか此話の中に一片の寓意かあることを諸君か御承知下されは私の幸福なりとして、此演壇を降ります